



いわて医療通信  
肝臓の疾患⑤

# アルコール性肝炎

毎日お酒を飲んでいる方も多いと思いますが、お酒を飲まなければやっていけないという話も良く聞きます。今回はアルコール性肝炎について記載していきます。

アルコール(ここではお酒と一般的に記載します)は、全世界で古くから親しまれている嗜好品の一つです。お酒は我々の生活を豊かにしてくれますが、一方で過剰な飲酒を長期に渡って続けると様々な臓器に障害をきたすこととなります。

今回の号でも記載しましたがいろいろなものを代謝する能力を持っています。肝臓はある程度の障害を受けても、代償作用が働いて、元に戻ることができません。

ちょうど弾力性をもつものが外力を受けて歪んでも外力がなくなると元にもどることに似ています。当初はアルコールによる脂肪肝の状態ですが、過度のアルコールによって次第にアルコール性肝炎から肝硬変へと進展します。時として重篤となります。世界では過剰な飲酒によってアルコール性肝障害(脂肪肝、肝炎、肝硬変)となり、さらに肝細胞がんや肝不全となり毎

年300万人以上が、国内においても毎年4万人以上が亡くなっています。

男性より女性の方が少量のアルコール摂取で肝硬変へ進んでしまうことが知られています。治療の大原則は禁酒です。禁酒できない場合は、アルコール依存症が隠れている場合がありますので、かかりつけの先生と相談のうえ、精神科など専門医療機関への受診を検討する場合があります。

岩手医科大学は2017年  
創立120周年を迎えます



岩手医科大学  
Iwate Medical University